

京交山岳部報

No. 292

'77 2月号

〔第1115回例会〕 王生そとさんご退職お祝い登山

雲取山

(R)

日 時 2月6日(日) 7.30 御園橋東詰上ル堤防集合
コ ー ス 上賀茂-花背峠-花背スキー場-寺山峠-フカンド峠-雲取山
担 当 者 本局 宮後正樹(TEL 251) 会費500円(記念品代含む)
携 行 品 多量の積雪が予想されるのでスキーまたはわかん必携、他に弁当、テルモス、防寒具、スパッツ、オーバー手袋等

〔第1116回例会〕 雪の北邊

鷲ガ岳

(T)

日 時 2月11日(祭)~13日(日) 5.00 京都東インター出発予定
コ ー ス 京都-岐阜-白鳥-高鷲村-鷲見...B.C...△1672 鷲ガ岳...往路下山
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 652) 申込〆切 2月4日(金)
携 行 品 冬山装備一式
備 考 マイカーで行きますので参加者は必らず連絡の事

〔第1117回例会〕 ファミリースキー

花背

(R)

日 時 2月27日(日) 8.30 上賀茂御園橋上流100m堤防集合
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 652) 申込〆切 24日(木)
マイカーで行きますので、参加者は事前に連絡してください。

。 今 月 の 集 会 。

日 時 2月17日(木) 午後7時から 下鴨寮

- 議 題 1. 例会(№1113~1116) 部員動静 報告
2. 3月例会(スキーツアー 他)、山岳部総会について
3. 連絡事項、 その他 一当番 九条第一支部一

リーダー会

2月4日(金) 田中宅



山での歓待

宮 後 正 樹

山での歓待ほど有難い嬉しいものはない。歓待とは「よろこびもてなす」ことであってそこには少なくとも自発的なすすんでそれを行うという意思が働いているものである。強制したり強要されてできるものではないはずである。それだけに受ける方にとっては心の籠った温かい友情とともにこのうえない喜びを感じるのである。

去年の山行をふり返ってもずい分と沢山の方々から山での歓待をうけ、私たちは本当に幸せ者だと今更ながら感謝している次第である。と同時に反面どれだけの歓待をしてあげることが出来たであろうか、反省しているところである。

先ず正月の恒例十二支会、紀伊龍門山では和歌山岳連の皆さんに前夜祭の大漁鍋のご馳走のほか龍門山々頂では和岳連女性軍によるブタ汁、カス汁の接待をいただき、中でもグッドアイデアの「祝辰歳一九七六、十二支会」の尾っぽをなびかせたゲイラーカイトの歓迎が印象に残っている。そのほか6月にはJAC全国集会の白山では北海道から関西まで初めての出会いにもかかわらず数々のお世話になった。11月の伊勢総門山では同行できないとのことで1足先に露払いにと登頂された新宮山の会玉岡、樋口両岳兄から歓迎のメッセージと南紀の原酒太平洋を山頂に残して無言の歓待をしていただいた。このユニークなアイデアとドラマに感激したものであった。また12月の南紀保色山では鷲友山岳会の田中増男氏の歓迎と差入れ、保色山々頂における新宮亀の子会小林庸泰氏ら一行による銘酒、甘酒、味噌汁、おはぎ、お寿司といった数々のご馳走で初対面の我々を迎えて下さった。また内輪ながら芦見谷での納山祭では三頭山からの帰りをお餅を齧り待っていてくれた岡田君の歓待は最近にないヒットでうれしいものであった。

これに対し歓待といえるかどうか、7月に大垣、松阪からお迎えして京都北山の龍ヶ岳、愛宕山地蔵山をご案内し龍ヶ石のお土産とコーヒーの接待をさせていただいたのがせめてもの慰めである。そのほかは京交の例会として4月の牧、田中両名菅部員の還暦記念登山の鈴鹿龍ヶ岳、6月の坂井氏500山記念登山の北山フカント山など、それぞれご当人はじめ参加の皆さんと共に喜んでいた

だけの山行が出来て良かったと思う。

このような歓待に対しなお注文をつけたり文句をいろいろなことが許されるであろうかまれば「己を知って他を知らぬ」であり、まさに他人の好意を無にするもので、暴虐非道、謹まなければならぬと思う。

「よろこびもてなす」気持ちからはそんな勿体ないだいたいそれた考えは生れない筈である。その人の身になって心から歓待し、それに報いる謙虚な気持ちを失いたくないものである。「恩報じは出世の相」ともいう。心したいものである。

高時山とニッ森山

宮 後 正 樹

同名の山が、すぐ南の恵那郡付知町と同郡福岡町境にある。長野県山口村の高土幾山も字は違いますが同音である。加子母村・高時山を紹介した「ぎふ百山」の一文である。

今日はこの付知町の高時山に登るのである。好天に恵まれ中央自動車道からずっと真白に輝やく中ア連山とつっすらと雪化粧した恵那山を存分に眺め、さらにまばゆいばかりの御岳の雪姿を拝しながら付知川沿いに北上する。柏原から西へ新田に登り切越峠への林道を分けて高度計が780mを示す高時山南麓の馬小屋の部落の上までさらに林道が延びている。

昔藤原刑部高時という武士がこの地に来て山頂に庵を結び風月を楽しんだという故事から名付けられたという高時山、もうすぐ上に迫っている。

谷沿いのよく踏まれた道を登るとやがて左右に道が岐れるがゆるやかな左へ道をとる。15分ほど登ったところで後続の今西先生方を待ったが一向に追いつかれずどうやら右の谷通しに登られたようだ。ここで引返せばよかったのだが大垣山協の高木、藤井先輩ら一行はそのまま稜線から向えば良しとなおも登ったが、ふり返る高時山は真後ろになってどんと東へ速さかって行くではないか。今さら戻るわけにも行かず稜線手前でとりとトラバースに移る。二つばかりの小さな山ヒ

ダを渡り急下降で元の谷通しの道に戻ることができた。谷をつめ稜上のコルに出ると新雪の白い道が右上へとさらに急な登りとなって続いていた。北峰を跨いで1086 m 三等三角点の山頂に達す。

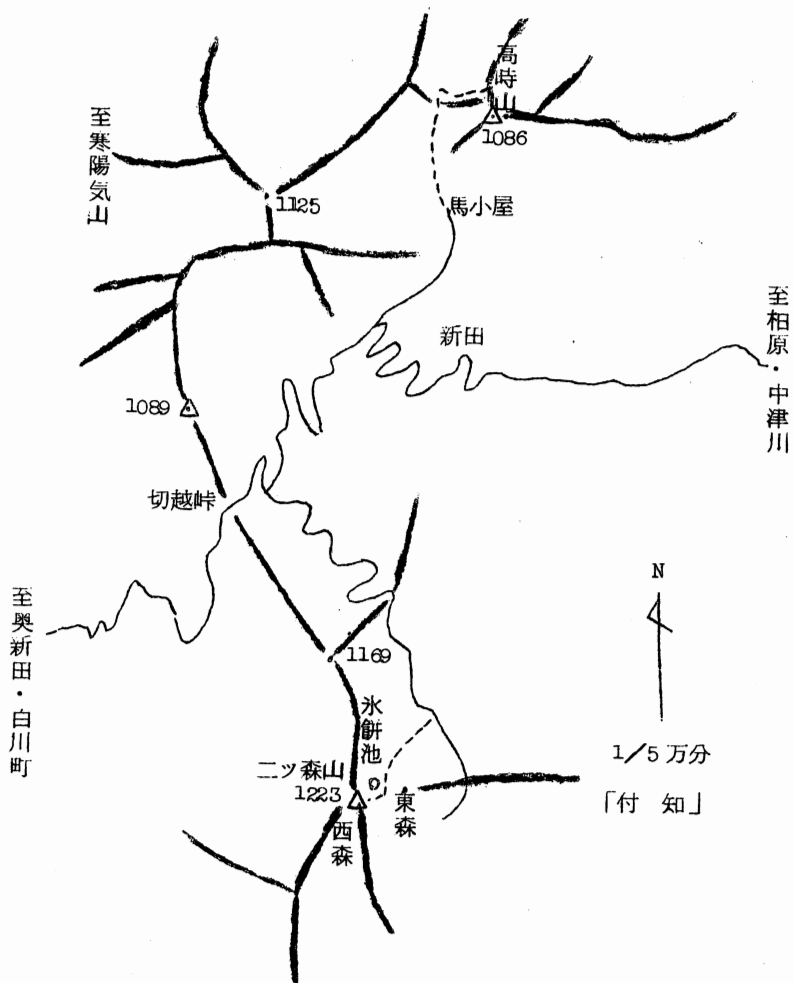
立派な焚火も出来てもうとくに先生らは登っておられた。全員登頂を待ってパンザイ三唱、缶ビールにノドが鳴る。灌木に囲まれた山頂には露岩上に赤い屋根の祠が祭られてあった。御岳をはじめ三界山を隔てて中アの連山、さらに恵那山から遠く南アルプスの白い峰を望む素晴らしい山頂であった。昨年の自慢会からのお預けになっていた高時山、先生も満足げに盃を重ねておられた。昼食を済せて一足先に先生らとお別れし高木崎男、賀嶋増造両氏と、吉村比佐さん、高木志茂子さん、それに小生の車に東 司氏、坂井、武田君と8人でニツ森山へ向う。

〔コース・タイム〕 1976. 12. 12

11.10 馬小屋 780 m 地点

13.00 ~ 13.40 ▲三等、高時山

14.15 ~ 14.20 馬小屋



東森、西森の二つの森からなる双子峰、二ツ森山は車道の開通した北の切越峠から尾根通しに山頂に向うのが一般的なルートだったが、切越峠手前から山腹を南下する林道がさらに東森の先まで廻り込むように延びているので我々は雪の凍りついたバリバリのこの林道を慎重に走って東面の平らかな高原地に車を置いて二ツ森登山口と印した小さい標識に導かれ再び雪を踏む。

氷餅池という小さな池があり落葉が一パイに溢れはりつめた氷の上に白い雪がかぶっていた。やがて西森と東森との分れに登り「ためいき坂」と書かれた急登が山頂へと続いている。雪と岩に足を滑べらせながら10分の登りで岩峰の山頂に登る。西方と南面がすっかり展けた15乃至20mほどの巨岩の上に二等三角点が埋め込まれ櫓が組まれた珍しい山頂である。

はち切れんばかりの8ツの顔がほころび萬歳が木霊する。去年の寒陽気山、新巢山に引続いて今年もさらに東濃の山二つを登らせていただき有難うございました。

〔コース・タイム〕

14.45 林道発	15.40 氷餅池
15.05 ためいき坂	15.50～16.05 林道
15.15～15.30 ▲二等、二ツ森山	21.30 京都東インター

第1108回例会

堂 満 岳

12月16日 晴のち曇

井 上 国 雄

7時10分山科駅で今津行電車に進藤さんと乗車、京都駅より乗車の清水、福田、大西、小林、上島さん達と一諸になる。いつもながら皆の顔はいきいきとしていた。比良駅7時45分着、バス時間を見るが無いので堂満岳へ向って歩くことにした。他に単独者一名も正面谷へ向っていた。午前中は快晴で比良の山々もすがすがしい日であった。国道へ出て比良農場跡へとコースをとる。途中には比良キャンプ村分譲地売込みのノボリ、カンバン等がひんばんに立ち並んでいる。比良キャンプ村で少休止、これより堂満東稜コースに入る。約45分位でノタノホリ池に出る。水面はまだ氷が張っていた。又近くで山仕事の人達のノコの音があちこちでこだましている。前後左右の山々の峻線もはっきり見透せ我々がアリののごとく列をなして進んでいる様である。約30分位登ると右に比良ロープウェイが見えてくる。武奈ヶ岳、カラ岳、シヤカ岳と全景を見渡しながら前回登山の時の思い出話をしながら進む。かなり急な坂道の続くコースであったが全員元気で10時50分、山頂に着く。前に降った雪がいたる所に点在している。一部道も凍結している。冷風もかなり強くなりだした。中央の大石にてパンザイ三唱をする。少々早いですが食事にするが冷風の為良い場所を捜す事にする。5～6分位歩くと良い場所を確認食事にする。冬期とあって皆暖かい食事で腹ごしらえをする。今回は納山登山と言う事で下山後スキヤキで一パイもあってさむさもど吹く風と言っ

た所、小生は特にその一人でもある。11時25分カナクソ峠へ向って出発。天候も次第に曇りがちに成り心配である。道中カナクソ峠までは樹木より岩の方が多い。岩は全般に甚だしく風化して、いたる所に奇怪な地貌が展開している。

カナクソ峠は5本の道が集合していて、いわゆる比良登山コースの大切な地点であると聞いている。これより青ガレ、大山口、正面谷へ向う。青ガレを通るのは始めてである。今迄の岩と違ってやゝ青味を帯びた堅強な石英斑岩である。この道はカナクソ滝を避ける為に高巻きしてこのガレの中腹を横断しているそうである。堅い岩が積み重なった急斜面を充分注意しながら無事正面谷へ下山、13時05分であった。バス時間を見ると丁度12分にある。予定より1時間あまり早くなったが比良駅へ向う。小雨がぱらつき始めた。山科駅14時30分頃着く。前もって予約しておいた四ノ宮の旅館に着く。ここで少し体を横にして16時に銭湯が開くとの事で一息入れ体をやすめる。17時近く銭湯より帰ってくると牧野健さんがスキヤキを用意して待っていてくれた。彼は以前迄一諸に登山をしていたのであったが昨年体を悪くして現在一時登山をしていないが、今回は納山祭と言う事から出席してくれた。スキヤキを食べながらこの一年を振り返り話しもつきない。

小生も登山歴一年が過ぎ、今思うに本当に苦しい登山、楽しい登山でもあった日々を振り返りほんとうに参加者全員無事故で登山出来た事に感謝の気持ちと諸先輩の皆さんに御礼を申し上げたい。来年(52年)初登山も蛇谷ヶ峰と決定、無事故で楽しい登山として前進をしていきたいと思えます。話しもつきることなく19時過ぎ忘年会を閉じる。

〔コース・タイム〕 京都駅7.04ー比良駅着7.45…キャンプ村8.30…ノタノホリ池8.55…
堂渡岳10.50…昼食11.00～11.20カナクソ峠11.50～カナクソ峠12.00
青ガレ12.55…インタ谷口13.05～バス発13.12ー比良駅13.27ー山科
14.30

〔参加者〕 上島和彦、大西純一、清水 譲、進藤義治、小林達雄、福田延行、井上国雄

第1109回例会

保 色 山

宮 後 正 樹

いつまでも元気で色が保てますように。11月の伊勢総門山々頂で、あたたかい焚火を囲みながら暮には是非、保色山にあやかってお揃いで登ろうと約束の山である。

高頭 式編集の『**■**本山嶽志』によると、保色山(別称釈迦嶽)紀伊国南牟婁郡ノ北方ニアリ、登路〔式按スルニ、飛鳥村大字神山カ〕凡一里四丁、標高三千二百六十尺とある。ところが神山このやまというのは大又よりもまだ南西にある地名で神山から登路を求めるならばむしろそれは地元で新保色山と呼んでいる△903.2m(三角点名、清水谷)のことではないだろうかと疑問が出て来た。

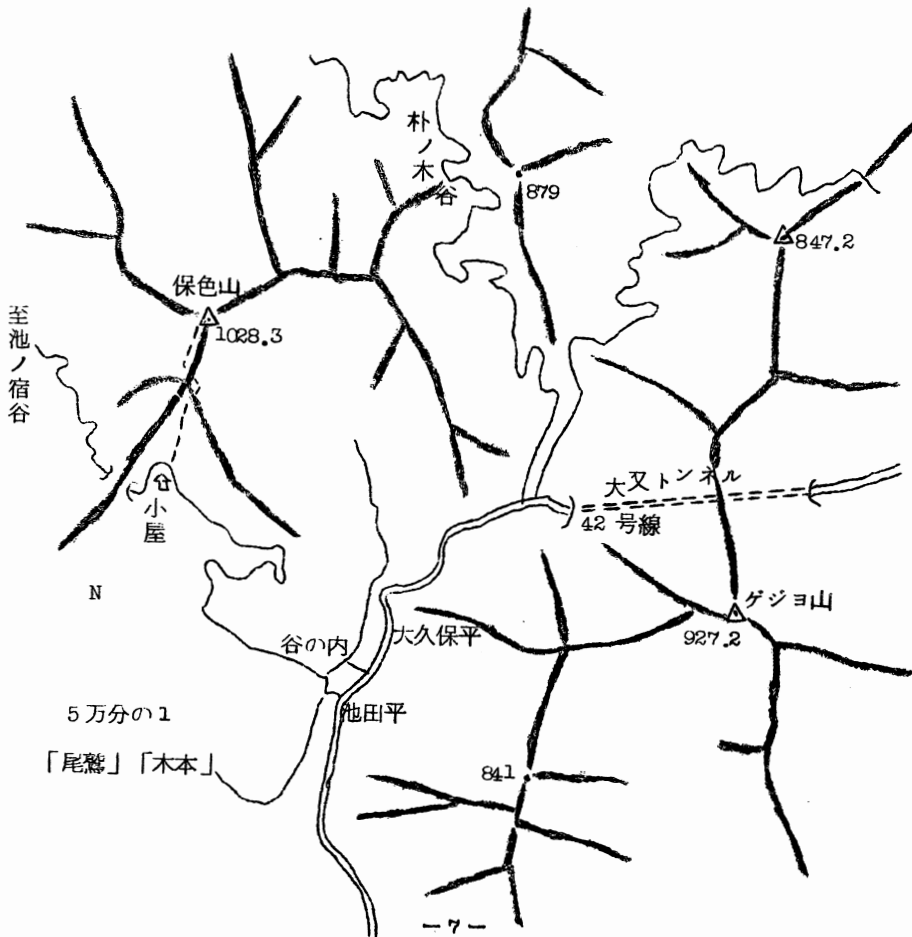
しかし国土地理院三角測量簿の黙の記(明治36年撰定、三角点名 大又)によると「所在 三

重泉紀伊国南牟婁郡飛鳥村大字大又字滝谷」とあり、「俗称 シダラ、順路は大字大又ヨリ山路一里強、案内者ヲ大又ニテ備フベシ」と記されており、この△1028.2m保色山との関連はもう一つ定かではない。

とにかく我々は総門山でお世話になった新宮山の会の玉岡、樋口両氏とも打合せしご案内いただいた南西ルートから登山し山頂で握手を交すことにした。

午後二時半、三橋君と小生の車に分乗した一行6名、京都東インターを出て松阪で山口ご夫妻をお誘いし一路42号線を尾鷲へと急ぐ。山口さんからご手配いただいた尾鷲の鷲友山岳会長田中増男氏のお出迎えをうけ、その名も楽しい今夜の宿、喜楽館へ案内していただく。夕餞の宴は田中氏から頂戴したお酒におつくりのほか大変など馳走で大いに盃を交し談じ英気を養うことができた。

雨戸をたたく激しい強風に翌朝はすかっと晴れ上り我々の入山を祝福してくれるような青空だった。静かな尾鷲の町並みを抜けて快適な国道を西進するとまもなく矢ノ川トンネルへの登りにかかる。閉鎖された矢ノ川峠への旧道を送り高い千仞橋、万丈橋を跨ぐと長い矢ノ川トンネルをくぐる。続いて昨夜、山頂での忘年会と玉岡、樋口両氏が泊られた筈の△927.2mゲジョ山を大又トンネルで抜けると大久保平の部落に着く。



途中伊藤さんが高度計の指針を合すべく257.1及び364.1 mの水準点を採したか結局二つとも見出すことが出来なかった。道路の整備は有難いが一方で水準点といった測量原点が大切にされない行政、三角点を採すよりもむづかしい状態は困ったものである。

池ノ宿谷へと通じている新宮営林署専用の大又林道を走らせてもらいぐんぐんと高度を稼ぐ。道は次第に荒れてきてガンガンと車の底をすりヒヤヒヤしながら登る。標高680 m 辺り、トンネル手前の集合解散場所の看板を掲げた営林署小屋の前で車をデボする。既に和歌山ナンバーの車が2台止っている。ひょっとすると玉岡さんたちがもう先に登っておられるのだろうか。

身仕度をして植林道を登る。南方の展望が開けて来て小春日和のような暖かさに汗がふき出る。約20分で稜線に達すると、はるか高峰山が奥ゆかしく頂上だけをのぞかせて招いている。またトンネルでぐり抜けて来たゲジョ山が思いのほか大きくシャープな姿で突っ立っていた。龍門山、大蛇峰、新保色山と南にはまだまだ立派な山が重なり合っていた。

三等三角点標石の上に太い杉の丸太をどっかりと立てて三方から木組したいかにも重そうでこちらの首筋までツシンと重みを感じるような可愛想な三角点、そこには紅3点を含む新宮亀の子会小林庸泰氏ら一行5人が山頂を清めて我々を待っていて下さった。ゲジョ山からさらに保色を意外な北東尾根から登ってこられた玉岡、樋口の猛者が変なヤブからひょこりと姿をあらわし大きな焚火は一層豪勢に燃えだぎっていた。早速玉岡さん特製の白ペンキ塗りの保色山の標識に新宮山の会、松阪山岳会、京交山岳部、新宮亀の子会交歓登山記念と記され三角点の横にガッチリと建てられてカーバイのバンザイを三唱した。続いて玉岡さん、樋口さんに朱塗りの木盃と清酒を贈り南紀の銘酒と合せてカンバイを交す。

亀の子会の甘酒、ミソ汁、おはぎ、秋刀魚寿司と色とりどりの接待で昼食をとり、山の歌から酒の歌まで飛び出して大いに歌い大いに飲んで予定を1時間もオーバーする盛会であった。林道に戻り又の再会を約して岳友の暖かい友情に見送られて保色山の交歓登山を終了した。初参加の家内も「遠方の朋に歓待してもらえるお父さんは幸せ者だ」と共に喜んでくれた楽しい山行であった。

〔同行者〕 松阪山岳会 山口政一氏ご夫妻

伊藤潤治、武田喜久郎、三橋 勉、中村恭子、宮後正樹、宮後純子

〔コース・タイム〕 1976. 12. 18～19

12/19 7.30	喜楽館発	13.05～13.30	営林署小屋
8.30～8.50	営林署小屋	21.00	帰京
9.52～12.30	△三等、保色山		

納山祭

三 頭 山

宮 後 正 樹

芦見谷林道最奥での納山祭は大きな焚火を囲んで夜の更けるのも忘れて歓談した。翌朝は好天に恵ま

れ約1キロ下流の芦見水道取入口の白い橋まで戻って芦見峠から三頭山を目指す。

この芦見水道は西側の越畑部落の灌漑用水として芦見谷の水を引くため芦見峠の下をくぐって造られた水路で今もなお健在で豊かな水が小さなトンネルをくぐっていた。584m芦見峠は四方から小径の交錯する広い明るい峠である。送電線の鉄塔二つを送って北尾根を登る。折から急に曇って来て霧の洗礼をうけていよいよ納めの登山にふさわしい銀世界となる。

新雪を踏んで728m三等三角点の待つ三頭山々頂に達す。北山らしい灌木に囲まれた静かな山頂である。岡本君の発声で万歳三唱、雪のオンザロック、お神酒でカンバイ。帰途は峠からユリ道の水平道に戻り頂度幕営地へ下る道も見付かってペースに戻る。岡田君が発電機まで持ち込んでお餅を蒸いて待っていてくれた。みんなで特製のお餅をよばれて快適な納山祭を終了した。

[コース・タイム] 1967. 12. 26

8.45	林道終点発	9.45 ~ 10.15	△三等、三頭山
9.00	芦見水道取入口、白い橋	10.45 ~ 11.55	芦見峠
9.10	芦見峠	11.20	林道終点、テント地

納 山 祭

坂 井 久 光

語り明かそか 飲み明かそうか
年に一度の 納山祭で
でかいかがり火 豪盛に燃いて
これぞ京交の 心意気

明けりや 皆んなで 三頭山へ
初雪踏んで 藪かき分けて
芦見谷から 芦見峠へ
登って 山頂 万才三称

第1111回例会

七 種 山

宮 後 正 樹

正月のはじめての子(ね)の日に、野山に出て小松をひき、若葉をつんであつものにして食べた

子の日の遊びにはじまるという七草粥(七種の祝、七種の節供ともいう)に因み、さらに無病息災を祈って正月らしい七種山を初登山に選んだ。

子の日、7日には少し早いのが正月3日参加の連絡もなかったので家内と2人で名神、中国自動車道を走って加西サービスエリアで休憩し福崎でハイウエーを下りる。

七種山に源を発する七種川沿いに長野、新田、田口とのどかな田園風景の中を走ると正面に七種嶺が秀麗な尖峰を見せてくる。左側に大きな石碑が立ち聖徳太子ゆかりの名刹七種山金剛城寺があらわれる。まずは初詣でと参道を上り石段を登ってお正月らしいしめなわを張った二層の立派な仁王門をくぐる。美しく清められた境内の庭園を抜けて正面の本堂に今年1年の山行の幸を祈る。新西国第三十番霊場の標札と「金剛のをしへの城のみめぐみの つゆ滋岡や七久さのさと」という高野山門主隆心と書いた額が掛っていた。

お寺を後に細くなった山間いの道をなおも走ると右手に川を堰止めた大きな溜池、七種池があらわれる。期待していた池面はどうして水を抜いてしまったのかすっかり干上って地割れしたあわいな姿を呈していた。続いて上流には福崎町の野外センターがあり冬景色にひっそりとしていた。数戸の民家を最後に道は凹凸がはげしくなり荒れているが車の通った跡があるのでギアを落して更に登る。古い山門を通り過ぎたところに5台ほどの車が止めてあり道が鎖がっていた。車内には猟銃のケースが置かれてありハンターのようだ。

車を置いてうっすらと新雪をかぶった冷たい道を進むと川沿いの台地で大きな焚火の煙と人声がする。近づくと10人ほどの人がたくさんの猟犬を繋いで火を囲んでいた。七種滝への道を決めて左手へ登って行くと間もなく林道は終点となり先ず紅ヶ滝である。左岸を登ると次いで八竜滝が右岸壁に氷結してもり上っていた。さらに右上へ植林帯を登ると七種山の向うから越えて来たというハンター2人が下りて来てどこまで行くのかと声をかけられる。頂上までという和我々の足跡かっているから大丈夫だと案内してくれた。急坂をなおも登ると前方に大きな氷瀑があらわれる。これが七種大滝だと氷の凍結に気を配りながら落口に上る。男滝という標識が立ち見上げる大岩壁は落差70~80mもあるのか、かぶさるように突っ立っている。陽差しにゆるんだ氷片がカラカラと音を立てて落下してくる。氷片をさけて記念写真を撮る。

男滝の左岸台地上るとウラジロ、ミカンをつけたしめなわが張られお堂の奥に簡素な七種神社が安置されていた。台地からは滝が真正面に眺められ登って来た七種川沿いの谷筋が見おろせる。本殿の左横からいよいよジグザクの急登がはじまり岩まじりの新雪に足を奪われながら木立の間をぐんぐんと高度を増して行く。けわしい40分の登りで岩の上にさらに笠をかぶせたような岩が重なる絶好の展望台があらわれる。笠岩と呼ばれるテラスである。遠く赤穂岬の海が光っていた。

積雪はぐんと多くなってさらに5分ほどの登りで杉、檜、ツガなどに囲まれた狭いヤセ尾根状の頭が681m七種山の頂上であった。展望もなく頂上らしい標識も何もない山頂、三角点がない山頂はやはりしまらない頼りのない感じである。まずは2人でパンザイを挙げるが、どうもシメリがちでパツとしない。杉の根つ子に古びた道標があり「繫なき岩」この先10m、気をつけて下さい。と書いてある。馬の背状の急坂のうえ積雪に滑らないようにステップを切って木につかまりながら

下る。なるほど10mほど下に足元から巾30cm位いの割れ目が横に3mもあるうか、覗き込むとすっぽりと下まで10m余り完全に割れている。うっかり足をふみはずしはまり込んだらもうお終い、身動きもできない遭難ものである。危ない危ないと家内に云われながら恐る恐る両足を割れ目の向う側の岩にかけ命をかけてカメラに納める。割れた先の岩は三角形に細った小テラスで三方絶壁となり垂直に落込んでいる。まさかいつ倒れるか分らない「つなぎ岩」の奇勝であった。北東方の雪に煙る笠形山が一際大きく眺められる絶好の展望台でもある。

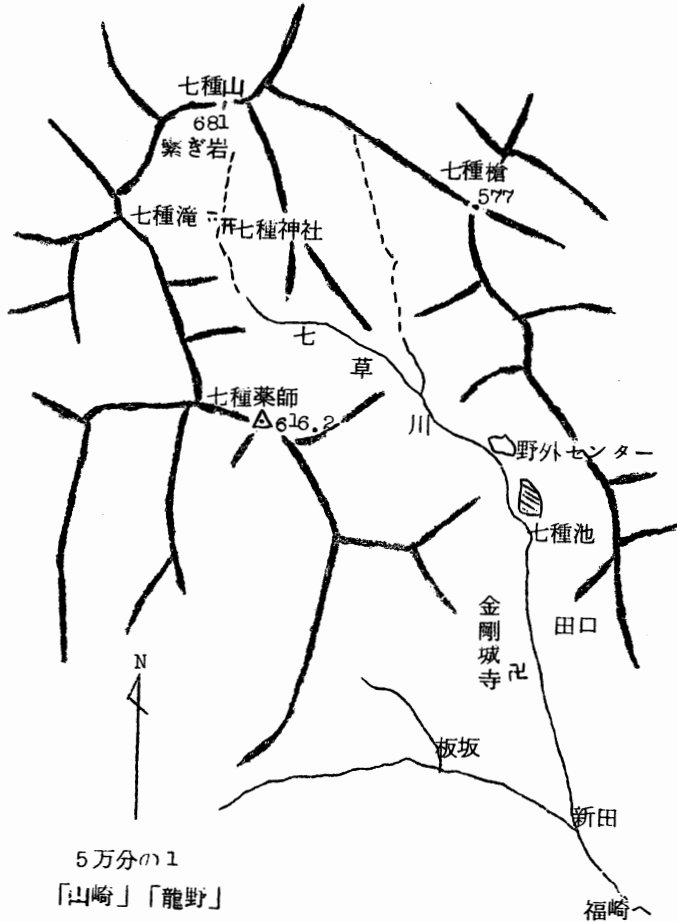
冷たい頂上を後に笠岩のテラスに戻って昼食をとる。家島の諸島だらうか、先ほどより一層はっきりとして海に浮んでいるのが印象的だった。七種滝(男

滝)落口の上で再びハンターに出会い3匹づつ連れた白い犬が盛んに吠え鳴っていた。見ると猪が土をかいた後があって山腹の自然林の中へ逃げ込んでいるのだと追いかけていた。

こちらも逃げるようにして車に戻り帰途は北条市の石仏、五百羅漢を見物して土産とした。

[コース・タイム] 1977. 1. 3

7.50 京都南インター	11.00 七種神社
9.00~9.30 加西SA	11.40 笠岩
9.40 福岡インター	11.45~12.00 七種山、繋ぎ岩へ
10.00 金剛城寺	12.05~12.40 笠岩、昼食
10.15~10.30 車止	13.07 七種神社
10.40 紅ヶ滝	13.20 紅ヶ滝
10.50 八竜滝	13.30~14.00 車止
10.55 男滝(七種大滝)	



初冬の山歩き

畑 照 人

愛宕山 28回 51. 12. 16 曇後雨

30回以上登る予定であったが、中々思い通りに行けなくてやっと28回目の入山となる。いつものように清滝公園に自転車をおいて、空也口から月輪寺コースをとる。コース入口にあったベンチが取外されていた。もうすっかり冬景色となった山道を落葉を踏んで行くのも気持ちよいものだ。山ぶどうの赤い実が今やまさかり?である。チョイと一口喰べる。これが山歩きの楽しいところだ。格別目や耳を楽しませるものも無い冬の山、喰べられ実があるのが嬉しい。神社まで誰にも会わぬ。それはそうでしょうね。年の暮の12月も半ば過ぎたというのに気楽そうに山へ来るなんて…。神前で自衛消防団の方々が参拝されていた。気温5°である。下でシャツ1枚脱いできたので少し寒い。休息して着る。若い人のグループ4人と本道コースへ下る途中で参拝の人4人に会ったのが今日の登山者であった。

大文字山 52. 1. 5 晴

今年の初登り大文字山から池の谷地蔵へ行く。弘法大師さんの祠へお灯明を上げてお餅を供え今年中の無事登山を祈念する。長崎から地学の研究に来たという高校の先生夫婦を三角点まで案内する。学問的に価値ある所らしい。そう云へば夏にも高校生の団体にいくらかも出合ったものだ。皆地学の研究部らしかった。池の谷地蔵へ参りおみくじ9番で内容聞くのを忘れてしまった。いつもあんまり良いのが出ないので、一そう聞かない方が良かったかも知れん。年始の行事が一つ済んで軽い気持ちで下山した。

愛宕山 1. 18 晴時々雪

52年初の愛宕山参拝登山である。十二支会の山行きに参加したのがトレーニング代りとなったのか今日の山行きは至極快調である。月輪寺コースに行くか期待した雪は空也滝はなし。月輪寺で約10%、神社前で20%であった。積雪量少くても滑るのは同じ、注意しながら登る。初登山なので神社のお札を受けて下山する。途中でアイゼン着けて登る若いパーティに出会う。登りはよいが下りはすべってあぶない。1回すべってころぶ。アイゼン(4本爪)リュックに入っているか出すのがじゃまくさい。これでは宝の持腐れであるが、粉雪降る中を飛ばして下山した。

所要時間上り2時間、下り1時間 気温-3°でした。

例 会 報 告

例会№	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1108	比良 堂満岳	12月 16日	曇	横大路 大西 純一	上島 和彦 井上 国雄 清水 譲	あまり天候はよくなかったが、今年の登り納めと、元気いっぱい堂満岳に登る。夜はスキヤキパーティ 詳細別稿報告
1109	南紀 保色山	12月 18日 ～19日		本局 宮後 正樹	山口政一氏 伊藤潤治氏 武田喜久郎 三橋 勉 他 3名	11月に登った総門山の続きということで今度は快晴に恵まれ、地元の新宮山の会、亀の子会の方々と楽しい交歓登山ができた。 詳細別稿報告
1110	納山祭 三頭山	12月 25日 ～26日		横大路 岡本 義弘	伊藤潤治氏 宮後 正樹 津田 実	本年最後のしめくくりとして毎年行っている年中行事の納山祭を今年は北山にくわしい津田さんの案内で、芦見谷源流へ集合し例によってキャンプファイヤーで大いに楽しんだ。 詳細別稿報告
1111	新春 七種山	1月 3日		本局 宮後 正樹	宮後 純子	別稿報告
1112	愛宕山	1月 9日	晴	本局 大槻 雅弘	石田 幸次 王生 そと 武田喜久郎	ファミリー登山の初登りということも月輪寺をまわって愛宕山へ登る。あいかわらず子供達は元気で先頭に立ち、ほとんど登りて行き我々大人達の方があとからフウフウ云いながらついて行く感じである。山頂付近に少し雪があり子供達は疲れもみせず、雪合戦をして遊んでいた。2時間程いて下山したが、下りもやはり子供達の方が早く一日中子供達にふりまわされたような山行であった。

雑 報

🏔 新年会兼集会報告

出席者 名誉部員 近藤氏、牧氏、山村氏、畑氏、伊藤氏
本 局 官後、木下、山田、津田、渡辺朋、王生、楠、上田、武田、三浦、西村
坂井、大槻、三橋、岡田
九 条 河村、石田、鷺見
梅 津 吉田、徳野
五 条 広瀬
横 大 路 田中、岡本

新年会としては最高の28名という多数の部員が集まり、そこへもってきて奥美濃から名神にて直行便のぼたんなべというおあつらえ向きの盛大なる大変にぎやかな集会となった。

又それに花をそえるように名誉部員各氏からそれぞれ清酒やみかんをいただき、坂井さんから金一封までいただきありがとうございました。

最後に今年還暦を迎えられる山村部長の挨拶があり、「今年も大いに山へ登ろう」ということで21時に閉会しました。

🏔 部費受領

九条第2 滝 裕

みんな知っている

古くからの厚生会特約店

野球用具 硬式・軟式専門店

ゴルフ初心者向クラブ沢山

あります 特に偶数クラブOK

以上の商品なんでもOK

購買証御利用下さい

月賦可 電話にて御注文下さい

KK西沢スポーツ

中・釜座御池下
(221) 5739



真の専門店として

好日山荘は前進しております

山とスキー用具の

ことなら御まかせ下さい

確信ある用具を

確信ある価格で……

好日山荘



河原町六角下ル東入
TEL 241-1731

京都最高のアクアリング用品専門店

- ウェットスーツ製造直売
- 潜水器具特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による
安全確実な潜水指導 (毎週木曜 夜7時ヨリ)

**ダイビングプロショップ
エリート**

スキューバプロ (米)

スキューバアプロ

AMF ポイト (米)

テクニサブ (伊)

京都総代理店

京都総発売元

京都総代理店

京都総代理店

603 京都市北区堀川通北大路上ル東側

TEL 075 (492) 8450

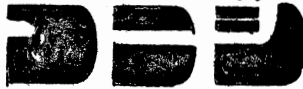
昭和52年2月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局 内 **京交山岳部**

HIKER & CAMP

御来店ありがとうございます
山とスキー
そして海の レジャー スポーツ ショップ



中・二条通河原町西 TEL 231-1208

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミズ車庫前
TEL 801-5331 (代)

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-7541代~4

HoRiKe まかせて下さい...ネ
山とスキー
KYOTO のことなら.....

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具"ゼヒ"御相談下さい
☆友の会会員募集中(毎月1000円)

山とスキーの専門店



河原町店 上・河原町通丸太町東入
烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側

テニス用品
スキー用品
山用品

交通局の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします

京菱運動具店

下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

PRO SHOP
山とスキー **チヨル**

輸入品とオリジナルの店

AM 12.00 ~ PM 9.00 三条御幸町下
定休日 月曜日 (221) 6186

山を美しく //

山のごみは

各自持って帰りましょう